

しおづくり工場

として活用



〈旧古江小学校〉



「地域と一緒に町おこし」を合い言葉に木造の廃校舎を「しお学舎」と命名。

施設の概要

海洋深層水施設が隣接しており、そこで取水された海洋深層水を用いた塩工場として活用。海に面した旧古江小ならではの活用をしている。塩だけではなく、地元の特産物を組み合わせた商品をつくることで、地域活性化に取り組んでいる。

廃校活用までの経緯

農業体験施設やレストランを手がける三重県の㈱伊賀の里モクモク手づくりファームが起業家を募り新たに㈱モクモクしお学舎を設立し、事業提案。提案を受けた尾鷲市も了承。

新たに設立されるのが工場であり、地域からは環境汚染などの悪影響が出るのではないかと不安の声もあったが、市と連携して積極的に説明の場を設け、影響が出ないことを説明した。また、海が目の前にあり取水施設が隣接しているこの学校だからこそできることであり、地域の特産物として売りたい尾鷲を元気にしたいという思いを伝えることで、地域の賛同を得ることができた。

(株)モクモクしお学舎

業種	食品加工
用途	工場
建築年月日	昭和31年12月
規模	1,617.164㎡
運営開始時期	平成19年7月19日
改修費用	約1億3,000万円



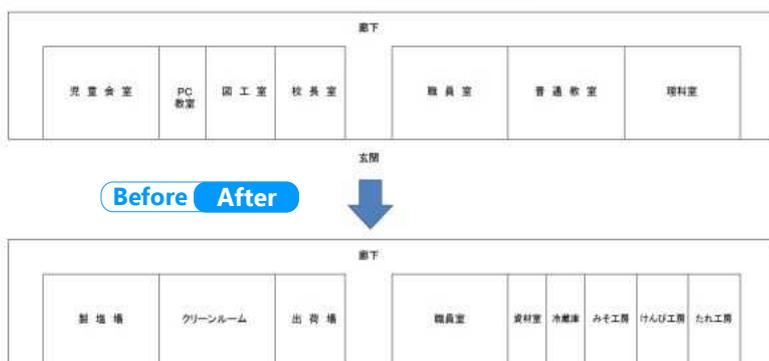
室名札はそのままだが、理科室は「熱処理加工室」となっている。

廃校を活用するメリット

廃校を活用していることでメディアに取り上げてもらえたり、地域の人が集まったりと他の施設との差別化を図ることができる。また、食品を扱う施設なのでさまざまな許可をとらなければならないが、扱う食材によって許可の種類が違う。学校は教室があり細かい部屋が区切られているので、その部屋ごとに違う許可を取ることができ、部屋が狭いため衛生管理もしやすい。



尾鷲を元気にしよう地場産業、個人14社が協力し、しお学舎が誕生した。



外観の改修は実施せず、耐震改修と各部屋のしきりの撤去および再設置を実施した。

自治体の声： 廃校施設を活用して企業誘致する場合、土地の造成や建造物の新築などすることなく誘致することが可能であり、初期経費を抑えた企業進出の案内ができ、地元雇用につながることで地域の活性化を図ることができる。また、そのままでは老朽化する建物も維持管理経費をかけることなく健全に保つことができる。

三重県 尾鷲市

菌床キノコ生産場

として活用



〈旧今津西小学校〉

施設の概要

菌床キノコ生産場として活用し、主にキクラゲを生産している。温度湿度管理を徹底するため、教室内をビニールで覆い、その中に空調設備や加湿器などを設置して生産している。今後はキクラゲだけでなく、他種キノコの生産など事業拡大を図る予定。

廃校活用までの経緯

廃校決定後、市では地域の代表者などで組織される学校跡地利用検討委員会を立ち上げ、跡地活用について検討を進めてきた。共栄精密(株)は菌床キノコの生産事業を核に当該山村地域における雇用創出、特産品化等により地域活性化につなげていきたいという考えがあり、市の想いと合致したため、委員会において説明し、承認を得ることができた。その後、市議会の承認を得たうえで、今津西小学校を無償貸与することとなった。



キクラゲが発生している様子

共栄精密(株)

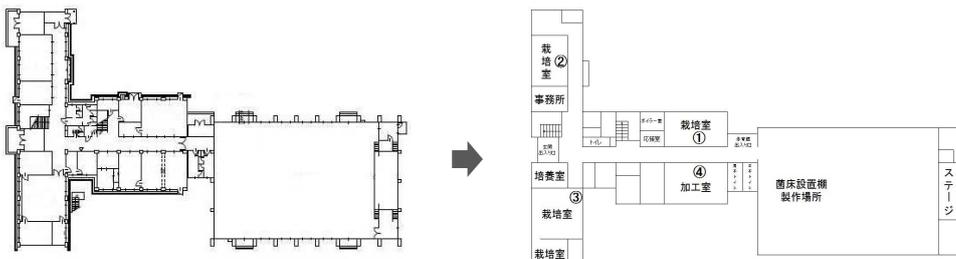
業種	製造業
用途	工場
建築年月日	昭和57年12月
規模	4,412㎡
運営開始時期	平成28年4月
改修費用	約3,500万円

廃校を活用するメリット等

廃校を利用することで初期投資を大きく削減することができた。また、校舎部分は教室ごとに区切られており、温度や湿度の管理がしやすい。地理的には高島と若狭をつなぐ国道303号に面しており、中山間地域とはいえそれなりによい。さらに、現在主に菌床キノコを生産している熊本よりも出荷先が集中する関東に近く、輸送コストの削減も見込める。あわせて京阪神地域にも近く、需要拡大に今後の展開が期待できる。当事業は、高齢化と人口減少が進む当該地域において、新たな拠点として地域の活性化が期待できる。



平成28年7月16日開催
地元住民見学交流会にて



Before After

滋賀県 高島市

自治体の声： 共栄精密(株)と協定を結び、平成28年4月から事業にかかわっていただいております。早速地元から2名の雇用をしていただいております。同年7月16日にキクラゲの初出荷を迎えたことに際し、共栄精密(株)による地元住民見学交流会が開催されました。ご参加いただいた約50人の住民の中には廃校時の在学生たちも来ており、自分たちの過ごした学び舎がキノコ生産場として活躍している姿に感動していました。

木質チップ加工場

として活用



〈旧大宮第三小学校〉

施設の概要

地球温暖化の防止、循環型社会・森林整備の促進を目的に、これまで放置されてきた間伐材等を原料とした木質バイオマスチップを製造し有効利用を進めるため、旧大宮第三小学校のグラウンドを加工場、保健室を事務室として、平成26年7月竣工稼働している。

廃校活用までの経緯

学校再配置により廃校となっていた旧大宮第三小学校のグラウンドおよび保健室を(株)丹後グリーンバイオに有償にて貸与。

旧大宮第三小学校は、地域の象徴的な建物であり、そのまま廃墟とするのではなく利用する方策がないかと、地元・行政等で協議を重ねられた。校舎が住宅地から離れており騒音の心配がないこと、丹後半島中心部に位置し、京都縦貫道「京丹後大宮北IC」にも近いことなど、木材の搬入出に便利であることから木材加工場として活用するには最適な場所であるとして地元住民から市に対して要望が出され、活用を決定した。



保健室を事務室として利用

(株)丹後グリーンバイオ

業種	木材加工
用途	工場
建築年月日	昭和55年5月
規模	グラウンド8,790㎡ 保健室 60㎡
運営開始時期	平成26年7月1日



加工場への進入路

廃校を活用するメリット

校舎が住宅地から離れているので騒音の影響が少ない。また丹後半島中心部に位置し、京都縦貫道「京丹後大宮北IC」にも近いため、木材の搬入出にも便利な場所に位置していることがあげられる。以前はグラウンドにコンテナハウスを設置し、事務室として使用していたが、保健室を事務室として使用することにより、府内外からの来客にも対応できるようになった。学校という地域の象徴的な建物を再利用することにより地域の貢献もできている。

活用した補助制度

農林水産基盤事業整備事業
(農林水産省)



肥料用・製紙原料用・燃料用に加工し出荷している。

京都府 京丹後市

自治体の声：地域の拠点施設である旧大宮第三小学校のグラウンド、校舎を(株)丹後グリーンバイオに有償にて貸与することにより、校舎の管理に要した経費の軽減を図ることができ、また校舎に事務所があることで校舎を廃墟とすることなく良好に管理できており、他の廃校となった学校の活用を考える上でのモデルケースとなっています。

眼鏡製造の拠点

として活用

山本光学(株)



〈旧北淡東中学校〉

施設の概要

旧北淡東中学校は、淡路島北部の淡路市にある。瀬戸内海を見渡す風光明媚な場所に立地する同校は、今や、眼鏡製造の拠点。出荷される製品は、スポーツグラスや感染防止用マスク。国内だけでなく、海外にも輸出されている。

廃校活用までの経緯

淡路市は、明石海峡大橋などの交通網整備により、神戸、大阪へのアクセスが向上したことから、地域経済の活性化、雇用創出をめざし企業誘致を図ってきた。なかでも、誘致の受け皿として着目したのが、廃校施設。特に旧北淡東中学校は、北淡ICにも近いことから、企業立地には絶好の地。平成16年3月に廃校となり、地元調整を経て平成21年1月より、利活用事業者の募集を開始した。ここに目をつけたのは、島内をはじめ大阪、徳島にも社屋を有する山本光学(株)だった。同社は世界のアスリートが愛するスポーツゴーグルで有名。同年2月には同校の利活事業者として決定。平成22年4月から工場として稼働している。



研修室として使われている部屋は旧音楽室

廃校を活用するメリット

校舎内は教室ごとに分断されていることから、ベルトコンベアによる流れ作業により製品組み立てを行うライン生産には不向きである。
しかし、多様なニーズに合わせたゴーグルのような少量多品種を扱う工場ならば教室が活用しやすい。生産する製品ごとに教室を割り当て、熟練した作業員が組み立てを行うセル生産には格好の空間配置である。

業種	眼鏡製造
用途	工場・倉庫
建築年月日	昭和38年12月1日
規模	5,505㎡
運営開始時期	平成22年4月
改修費用	約15,000万円

Before After



床材、照明の変更、防音材の設置など必要な工事は最小限にとどめ、既存のスペースを有効活用。

自治体の声： 廃校を活用していただいて早7年。地元雇用の確保といった経済的な側面だけでなく、今では、市と災害協定を締結し、感染症防止ゴーグルを提供してもらおうなど、地域になくてはならない存在。

兵庫県

淡路市



スナップリング(止め輪)



〈旧浅野小学校〉

養父市では、平成18年度より、雇用の創出による地域の活性化を図るため、廃校を活用した産業立地を進めており、(株)ヤブ・ハシマで4例目となる。(平成29年度現在6校の廃校に企業が進出)

本市は、これまで廃校活用の事例や募集など「みんなの廃校プロジェクト」を通じて紹介しており、この情報を閲覧した企業等の問合せが年々増加傾向となっていた。

そのような中、(株)ヤブ・ハシマは、事業の拡大と効率化を目指し、事業用施設を探しており、廃校を活用することを注目し、高規格幹線道路のI・Cに近い当廃校に進出を決めた。

学校は地域のコミュニティを形成し、廃校となっても地域の思い入れは強い。このため地元住民に対し説明会を開催し、当企業の地元からの雇用やこれまでどおり当施設の利用など、地域との共存共栄の事業運営に賛同が得られ、進出の運びとなった。

施設の概要

平成24年12月操業開始。体育館はスナップリング(止め輪)を製造するプレス場として、校舎は、製造施設のほか事務室や従業員用の食堂、休憩室として活用している。「地域と密着した工場」という理念のもと、校庭や校舎の一部を地域住民に貸し出し、スポーツやコミュニティ活動の振興にも活用している。

廃校活用までの経緯

本市は、これまで廃校活用の事例や募集など「みんなの廃校プロジェクト」を通じて紹介しており、この情報を閲覧した企業等の問合せが年々増加傾向となっていた。

学校施設は、5,000㎡から20,000㎡と規模もさまざま、用途に合わせて施設の有効活用が図れることにより、操業までの初期コストが低額に抑えられるなどのメリットがある。

また、廃校となった学校を活用することの企業イメージの向上・ストーリー性などエンドユーザー(商品利用者)へのPR効果が高い。

廃校を活用するメリット



長閑な田園風景の広がる中山間地域



体育館に並ぶスナップリングを作る大型機械

Before After



校舎の1階部分と体育館にかけて、製造ラインを確保。体育館は高い天井高と柱のない広いスペースを活かして、大型製造機械を設置するなど、作業の効率性を考慮したレイアウト配置となっている。

自治体の声： 廃校を活用した産業立地は、雇用の創出や地域経済の活性化が図られる。また廃校となった今もお地域のシンボリック的存在である小学校に明かりが灯り、今も変わらず地域コミュニティの場となっていることの意義は大きい。

金属製部品製造工場

として活用

(株)ヤブ・ハシマ

業種	製造業
用途	工場
建築年月	昭和51年3月
規模	延床面積2,401㎡ (校舎・体育館)
運営開始時期	平成24年12月
改修費用	約2億円

養父市

兵庫県

洋菓子店

として活用



〈旧養春小学校〉

施設の概要

地元農産物を産地で加工して販売する洋菓子店として活用。材料を地元の生産者から直接仕入れることで地域活性化に取り組んでいる。児童が給食を食べていたランチルームを改修し店舗に、調理室を厨房としてケーキ等洋菓子を作っている。洋菓子に串本町の文化もあわせて発信し、笑顔の集まる洋菓子店を目指している。

廃校活用までの経緯

地元出身者であり、ふるさと大使である恂セ・ラ・セソンのオーナーが、平成22年3月に廃校となった養春小学校を活用したケーキ作り教室について串本町に提案し、平成24年度から開催してきた。地元団体の協力により実施してきたイベントを経て、平成28年7月1日「セ・ラ・セソン和歌山串本養春店」がオープンとなった。



地元農産物を加工した洋菓子

(有)セ・ラ・セゾン

業種	洋菓子生産・販売
用途	厨房・小売
建築年月日	昭和12年3月
規模	1,889㎡
運営開始時期	平成28年7月1日

廃校を活用するメリット

廃校の広い敷地を活用することによりさまざまなイベントを開催することが可能。また、生産者との連携により、地元農産物の産地加工を実現している。今後は、料理教室等を実施し、さらなる地域活性化につなげていきたいと考えている。



室名札を利用した店舗案内



小学校校舎を使用したことにより、アットホームな空間を生み出している

和歌山県 串本町

自治体の声：近年、少子化による児童生徒の減少などにより、多くの廃校が発生し、その施設の有効活用が求められています。このような中、地元の農産物を加工販売していただいたり、また串本にゆかりのあるトルコ共和国との交流の歴史を、お菓子を通じて発信していただいていることは、本当にありがたく感じています。